

パークシティ柏の葉キャンパス 二番街

千葉県北西部に位置する、つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス」駅。今、この駅周辺では、公・民・学の連携により、「環境・健康・創造・交流」のまちづくりをめざした首都圏屈指のビッグプロジェクトが進行中です。そして、この地に新たに誕生する大規模マンション「パークシティ柏の葉キャンパス 二番街」では、地域に向けて開かれながらも住民の暮らしを守る、ユニークな安心のカタチが生まれています。

首都圏有数の先端分野研究拠点。

柏の葉キャンパスでは、柏市・千葉県・千葉大学・東京大学によって構想されたグランドデザイン「柏の葉国際キャンパスタウン構想」のもと、民間企業や市民・NPOを巻き込んだ大規模なまちづくりが進められています。本構想でめざすのは、「国際学術研究都市」「次世代環境都市」。その広大な敷地には、かつて三井不動産グループが経営していたゴルフ場があったこともあり、三井不動産グループが具体的なまちづくりを進めています。

次世代の街で生まれる 自然な暮らし。



人と人がオープンにつながり、安心して暮らせるまちへ。

地域に開かれたまち。

三井不動産グループは、977世帯のマンション「パークシティ柏の葉キャンパス 一番街」をはじめ、約170店舗が集まるショッピングパーク「ららぽーと柏の葉」を開発。新しい暮らしの舞台を次々に整えています。

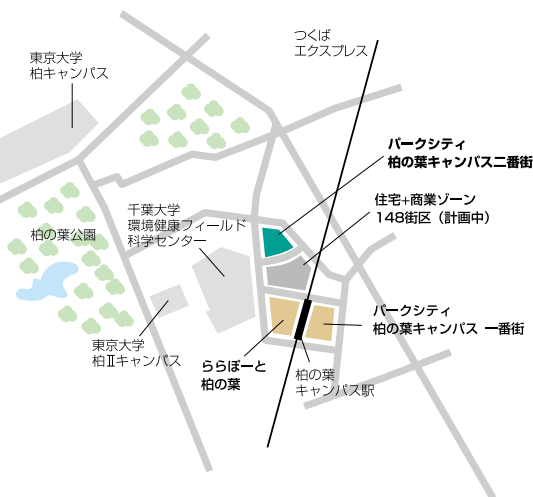
そして今、この地に新しい大規模マンションが誕生します。それが、平成22年春販売開始予定の全6棟880世帯マンション「パークシティ柏の葉キャンパス 二番街」。住宅の企画開発・販売を手掛ける三井不動産レジデンシャル(株)千葉支店 開発室の村田宜顕氏は、マンションの開発コンセプトを「開かれたまち」と表現します。「マンションは大規模でもすべて扉で囲ってしまって、住人だけが通れるゲートをつくるのが通常です。しかしそれでは柏の葉のまちのコンセプトに合わない。そこで、オープンな外構計画を採用しました。マンションの中央を緑の道が貫き、歩行者と自転車の専用道を設けています。この道を中心に6棟が対称的に配されます。緑の道は駅からつながる予定です」。

オープン×セキュリティ。

「しかし、外構がオープンだからといって、住人の暮らしが脅かされてはいけません」と村田氏。そこで、各住居棟のエントランスに導入されるのが、ハンズフリーセキュリティシステム。アクティブタグを所持しているだけで個人を自動認証し、扉を開く、新しい入退管理システムです。「通常のエントランスキーよりもハンズフリーセキュリティの方が、本物件のコンセプトに適していると考えました。荷物を抱えたまま風除室で鍵をゴソゴソと探すことなく、ウォークスルーで入れるところが魅力です。さらに、ハンズフリーでありながら共連れを検知できることも利点です。タグを持たない人がついて入ると、アラームが鳴る仕組みで、部外者の侵入を高精度に防ぐことができます」(村田氏)。

セキュリティ、その先の便利へ。

また、エレベーターホールにもハンズフリーセキュリティが導入されます。目に見えないバーチャルゲートを設置し、タグを持った住人がエレベーターに近付くと、すばやくかごを呼び出し、居住階のボタンしか



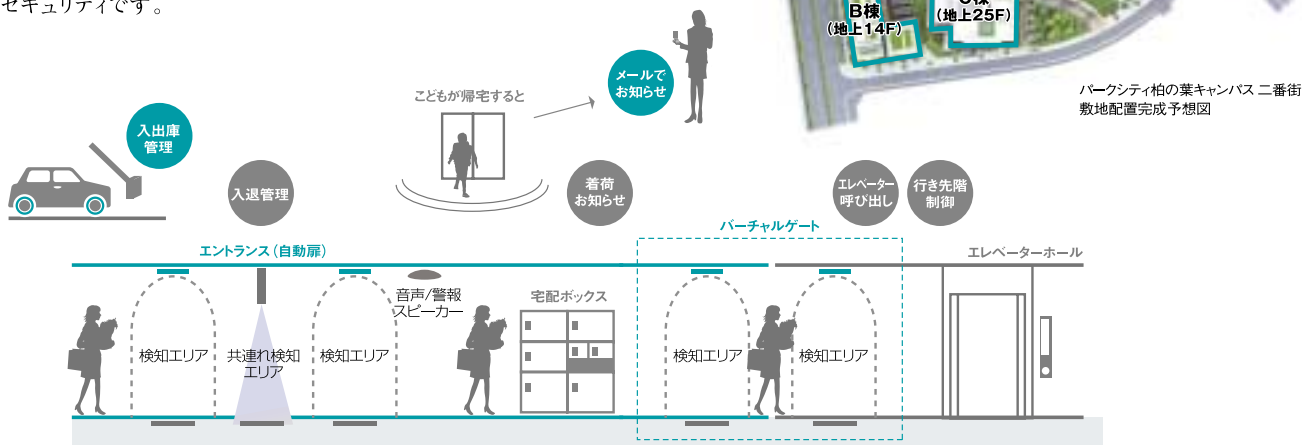
三井不動産レジデンシャル(株)
千葉支店 開発室 主査

村田宜顕



押せない仕組み。「今回のシステムは、エレベーターや車両ゲートと連動しているため、住人はタグひとつで駐車場から専用住戸前まで、何もすることなく快適に入っていきます。さらに、こどもの帰宅時にはメールで教えてくれたり、入館時に宅配ボックスの荷物の到着をお知らせしてくれたり、便利な機能も充実しているのです」。

安心×快適×便利。まさしく、地域に開かれた、新しいまちにふさわしいセキュリティです。



パークシティ柏の葉キャンパス 二番街敷地配置完成予想図

ハイテクとアナログが融合する。

「柏の葉キャンパスは、およそ10年間で約3,000戸を供給する大規模開発になります」と今後の展望を語る村田氏。こうしたなかで、まちを機能させるためには、「すでにお住まいの方とこれから住まわれる方、まち全体をつなぐコミュニティづくり」が重要だと言います。そのひとつに、“ピノキオプロジェクト”があります。

「『子どもは街で育てよう!』がピノキオプロジェクトのコンセプト。子どもをつなげ、親同士もつなげる試みです。子どもたちが本物の銀行の窓口で受付したり、地元の農家の野菜を売ったり、まち自体をデザインしたり、さまざまな学びの機会を通じ、子どもの豊かな感性や思考力を育てています。そして、ピノキオプロジェクトに続き、2年連続でグッドデザイン賞を受賞したのが『はっばっば体操』です。これは、誰でもかんたんにできて、まちの共通言語として愛される柏の葉オリジナル体操です。地元チーム参加のコンテストを行うなど、盛り上がっていますよ」。

村田氏は、「理想は、昔ながらのコミュニケーションがあるまち」と言います。

「住人同士のコミュニケーションが自然に生まれれば、人の目によるセキュリティが熟成され、もっと豊かな暮らしが実現できるはずです」と熱く語ります。先進のテクノロジー、そして、昔ながらのコミュニケーション。このまちでは今、ハイテクとアナログが融合した安心がカタチになろうとしています。

「ピノキオプロジェクト」

アーティストひびのこづえ氏デザインの衣装を身にまとった子どもたちが、八百屋・花屋・カフェ・銀行などで働くプロジェクト。さまざまな体験をしながら気づきを得て成長するピノキオの物語がモチーフ。



「はっばっば体操」

地元東京大学柏キャンパスの小林寛道先生が監修し、海外でも活躍する一流のクリエイターが制作した柏の葉オリジナル体操。人と人をつなげ、コミュニケーションを促し、さらには頭の中で活性化するように考えられています。